



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

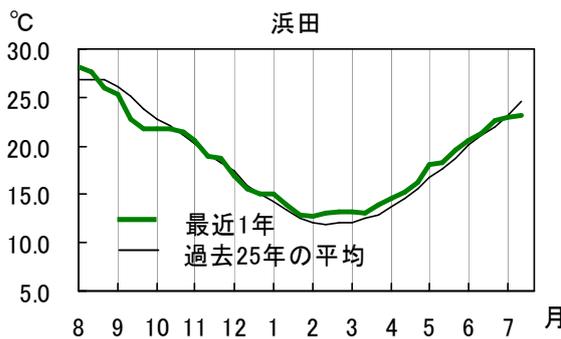
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《6-7月の海況》

6月	月平均	平年差	評価
浜田	21.5℃	+0.4℃	やや高め
恵曇	21.0℃	+1.0℃	やや高め

沿岸定地水温は、6月は浜田、恵曇とも平年よりやや高めとなりました。7月に入ってから浜田、恵曇とも平年よりやや低めに推移しています。



《6月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田はマアジ、マサバ主体の漁況で、漁獲量、金額はそれぞれ平年の1.7倍、2倍と好調に推移しました。浦郷はマアジ主体の漁況で、漁獲量、金額はそれぞれ平年の1.2倍、1.4倍と好調に推移しました。西郷も浦郷と同様にマアジを主体に漁獲量、金額ともに平年の1.4倍と好調でした。

【イカ釣漁業】

浜田港(属地5トン以上)ではスルメイカ、ケンサキイカ中心の漁況で、前月と同様に漁獲量は平年の8割と低調に推移しました。西郷(属人5トン以上)はスルメイカ中心の漁況で、前月と同様に漁獲量は平年の2割と極めて低調に推移しました。

【シイラまき網漁業】

石見地区では操業日数が平年の半分程度に留まったことやヒラマサの来遊が少なかったことから、漁獲量、金額はそれぞれ平年の4割、2割と低調に推移しました。

【ばいかご漁業】

石見・出雲地区のバイかごによるエッチュウバイの漁獲量は平年(過去5年平均)並でしたが、価格安のため金額では平年の9割に留まりました。昨年同様、大型貝の割合が高くなっています。

【定置網漁業】

出雲地区ではマアジ、ブリ、トビウオ類、マルアジなどが多く漁獲され、漁獲量は平年の1.2倍となりました。隠岐地区ではマアジが主体で平年の1.5倍の漁獲量となりました。石見地区ではマアジ、ケンサキイカなどが漁獲されましたが、漁獲量は平年の8割に留まりました。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカを中心に漁獲量は平年並みでした。出雲地区ではケンサキイカを中心に漁獲量は平年の1.2倍でした。隠岐地区ではキダイ、カサゴ・メバル類などを主体に、漁獲量は平年並みでした。

大型クラゲ情報

7月25日に今年度本県で初めて大型クラゲが確認されました(江津沖15マイル、4個体、大きさ30-50cm)。また7月30日には、対馬の定置網に300個体以上の入網が見られました。今後、島根県沿岸でも増加が予想されますので注意が必要です。

【平成 19 年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ、マサバ	800トン	223	171	13トン	201	163	◎
	西郷	マアジ、ウルメイワシ	2,942トン	150	144	30トン	163	150	◎
	浦郷	マアジ、ウルメイワシ	1,766トン	155	123	23トン	165	155	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ、ケンサキイカ	50トン	1,298	76	157 kg	431	79	○
	西郷	スルメイカ、ケンサキイカ	9トン	26	21	144 kg	55	87	○
シイラまき網	和江	シイラ、ヒラマサ	29トン	191	37	1,049 kg	130	82	○
バイかご	久手	エッチュウバイ	19トン	88	97	518kg	94	107	○
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ、カタクチイワシ	31トン	87	102	1285kg	93	112	○
	美保関	マルアジ、マアジ、トビウオ類	143トン	96	133	5299kg	97	114	◎
	浦郷	マアジ	32トン	129	166	1224kg	121	88	○
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ	20トン	250	140	25kg	147	93	○
	大社	カサゴ・メバル類、イサキ、キジハタ	7トン	54	61	37kg	37	45	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、キダイ	20トン	103	73	34kg	119	86	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下